

修 士 論 文 要 旨

看護学専攻	人文社会看護学 分野	学籍番号	219607
		氏 名	谷本 裕一
論文題目	退院調整看護師が抱える在留外国人患者の退院支援・退院調整における課題 ——文化ケアに関してコミュニティが果たす役割——		
キーワード	退院調整看護師 在留外国人患者 退院調整 文化ケア コミュニティ		
<p>【背景】 我が国の在留外国人数は増加傾向にあり、多文化共生社会の実現に向け数々の取り組みが行われている。看護においてもその例外ではなく、異文化に対する理解が求められている。その一方で、我が国は、急速に進む高齢化に対応すべく地域包括ケアシステムの構築と推進を図っている。その過程で在宅移行支援が注目されているが、在留外国人患者の退院支援・退院調整をめぐる課題については十分に研究されていない。</p> <p>【研究目的】 退院調整看護師が在留外国人患者の退院支援・退院調整において、どのような課題を抱えているのか文化ケアに着目して解明する。</p> <p>【研究方法】 研究協力病院は5施設で、退院調整看護師7名にインタビューガイドに基づいた半構造化面接を実施した。このうち研究条件に適合する6名を研究対象とした。語りから逐語録を作成し質的記述的分析を行った。本研究は、三重県立看護大学研究倫理審査会の承認を得て実施した（通知番号201204）。</p> <p>【結果】 9のカテゴリーと26のサブカテゴリーを生成された。 おもに在留外国人患者側に起因する困難・課題についてのカテゴリーは、次の4つである。【固有文化ゆえの行動変容とその継続の困難】、【経済的困難ゆえの社会資源利用に関わる困難】、【コミュニティに帰属していないと生活が困難】、【アドホック通訳の利用が招く在留外国人患者本人の意思の不明確さ】。 おもに退院調整看護師を始めとした支援者側に起因する課題についてのカテゴリーは、次の5つである。【不十分な異文化理解ゆえの不十分な退院調整】、【言語的支援体制の不足による意思疎通における課題】、【共通枠組の不備ゆえの包括的支援における課題】、【在留外国人患者に対応した多職種連携体制における課題】、【在留外国人患者の多様な支援ニーズに対する支援の限定性】。</p> <p>【考察】 在留外国人患者は退院指導における行動変容や変容後の継続が難しく、また言語運用能力の不足や経済的困難がしばしば伴うことにより、これらに対応した支援を要すると考えられる。退院調整看護師はこうした事例において、多職種連携でアプローチしていた。しかし、支援体制の整備不足や多職種連携体制における課題も相まって、全ての支援ニーズが退院調整看護師を始めとする支援者により充足されているわけではない。支援が十分行き届かない不足部分に対し、コミュニティはアドホック通訳や対応する支援者数の拡充をもたらすといった正の側面を持つことが示唆された。この反面、コミュニティはその圏内を生活の拠点として提供することで、日本語の習得機会の損失、食生活において自文化へ引き寄せる誘因となり行動変容後の継続を難しくするなど負の側面を併せ持つことが示唆された。</p> <p>【結論】 退院調整看護師は、一方で在留外国人患者のコミュニティに依拠しながら退院支援・退院調整を実践している。しかしそれと同時に、コミュニティはまた在留外国人患者の行動変容や退院調整看護師と在留外国人患者との意思決定を阻害するハードルにもなっている。退院調整看護師が抱える在留外国人患者の退院支援・退院調整における課題において、このように在留外国人患者の帰属するコミュニティは正と負の二重の意味を帯びていることが本研究から明らかとなった。</p>			